



中野区立緑野中学校 学校だより

探求・創造・共生

令和4年11月30日(水) 発行 第7号

雨ニモマケズ

校長 飯島 博之

今年もあと一か月となりました。地域・保護者の皆様には、日頃から本校の教育活動に御協力いただき、ありがとうございます。

12月になり3者面談や3年生の面接練習も始まり、3年生は進路決定に向けて全力で取り組んでいるところです。進路選択に当たっては、自分の適性(特性)や興味・関心、将来の夢や希望などを総合的に考えて選択してほしいと思います。

さて、右の詩は宮沢賢治の『雨ニモマケズ』です。

この詩は、賢治の手帳に書かれていたもので、作品として発表する意思はなく、自分自身に向けて書かれたものと考えられています。

賢治は、教師、科学者、宗教家、農業指導者などの活動をしながら詩人としても活躍しました。

この「雨ニモマケズ」は、読む人の状況によって様々な感じ方があると思います。

この詩のはじまりの、雨にも負けず、風にも負けずの部分は、「何か苦しいことがあっても、我慢して、力強く生きるべきである。」と感ずることでしょう。

また、ある人は、東に病気の子供あれば、行って看病してやり、北に喧嘩や訴訟があれば、つまらないからやめろと言いの部分から、「人のためになることや人に優しく生きることが大切である。」と感ずるかもしれません。

しかし、一番大事なところは、みんなにでくのぼーと呼ばれ、ほめられもせず、苦にもされず、そういうものに、私はなりたいたいという部分の、「人からの評価を気にせず、人として大切なことを貫いていく人になりたい。」という賢治の理想とする生き方だと思えます。

現代の社会は、自分の生き方の選択やSNSなどで、周りからどう思われているか、人の評価を気にしがちです。このような状況でも、自分が正しいと思えることを自信をもって実行していくことが大切だと賢治は90年後の私たちに教えてくれています。

雨にも負けず
風にも負けず
雪にも夏の暑さにも負けぬ
丈夫な体をもち
欲は無く
決して怒らず
いつも静かに笑っている
一日に玄米四合と
味噌と少しの野菜を食べ
あらゆることを
自分を勘定に入れずに
よく見聞きしわかり
そして忘れず
野原の松の林の陰の
小さな萱ぶきの小屋にいて
東に病気の子供あれば
行って看病してやり
西に疲れた母あれば
行ってその稲の束を負い
南に死にそうな人あれば
行って怖がらなくてもいいと言い
北に喧嘩や訴訟があれば
つまらないからやめろと言い
日照りの時は涙を流し
寒さの夏はおろおろ歩き
みんなにでくのぼーと呼ばれ
褒められもせず
苦にもされず
そういうものに
わたしは
なりたいたい

11月12日（土） 道徳授業地区公開講座

11月12日（土）は、1校時に道徳の公開授業、2、3校時には、体育館で動物愛護団体アيدッグ・レスキューの皆さんからお話を聞いて、動物を飼うということは命を預かること、保護犬の里親探し、動物への虐待などについて学びました。



11月13日（日） 中野区総合防災訓練

10月13日（日）は、緑野中学校の校庭で、中野区総合防災訓練（沼袋地域）が行われました。当日は、地域住民601名、関係機関等を合わせて計906名の参加がありました。定期考査の前日のため生徒の参加は少数でした。9:00から沼袋地域の3か所で、消火器やスタンドパイプの初期対応訓練が行われ10:00に緑野中校庭に集まり、公助連携訓練（各防災機関、災害時応援協定を締結している事業者等と協力して、救援物資の輸送や道路の障害物除去の訓練等）が行われました。また、会場では、起震車や煙ハウス、救出救助体験、のこぎり体験などが行われました。



11月28日（月）～30日（水） 2年生職場体験

2年生は、11月28日（月）から3日間、職場体験を行いました。区役所、警察署、図書館、小学校、コンビニエンスストア、保育園、クリニックなど57か所で体験を行いました。

